

# Bouquet

ブーケ



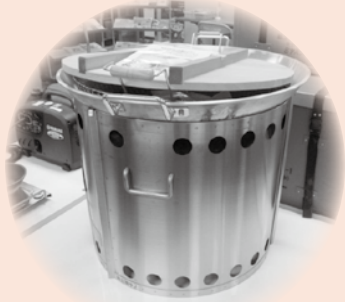
家具類の転倒防止をしっかりと  
(事業スタッフ 脇坂撮影)



入船1丁目防災備蓄倉庫の工具類  
(事業スタッフ 村田撮影)



消火活動に男女の別はありません  
(佃島小学校、佃中学校防災拠点)



300人分の汁物を作れる  
炊き出し用の釜 (防災拠点備品から)



十分に美味しい非常食  
(防災拠点備品から)



救急救命訓練  
(京橋防火女性の会)



新大橋のたもとにある関東大震災の避難記念碑。橋が焼け落ちなかった  
ことから「お助け橋」と呼ばれています (事業スタッフ 脇坂撮影)



月島水門。水門は、高潮時には堤防の  
役割をします (事業スタッフ 中原撮影)



煙体験訓練  
(月島第二小学校防災拠点)



階段の移動を助ける器具の取扱い訓練  
(十思スクエア防災拠点)



街頭設置の  
消火器に気づいていましたか？

contents

**特集** 一人ひとりがつくる防災に強いまち

インタビュー	女性の視点で考える防災対策	国崎信江さん (危機管理教育研究所代表)	… 2p
レポート	まちの備えを知っていますか？		… 4p
区の取り組み	中央区における防災の取り組みと男女共同参画について		… 6p
輝くひとにインタビュー	in 中央区 京橋防火女性の会		… 7p
第9回	中央区「ブーケ祭り」を開催しました		… 8p
Bouquet Information	秋から始まるブーケの講座、イベントほか		… 10p
TOPICS	ブーケ祭り実行委員会企画報告ほか		… 12p

No. 62  
2010.9

# 一人ひとりがつくる 防災に強いまち

## 女性の視点で考える防災対策

危機管理教育研究所代表

### 国崎信江さんに聞く

防災の分野では、女性の参画がまだまだ少ないのが現状です。女性として、母として、独自の視点で防災対策を提唱し、国の委員会等でも活躍中の国崎信江さんにお話をうかがいました。



### 阪神淡路大震災に衝撃を受け、防災の道へ

Q なぜ、防災の道に進まれたのですか。

国崎…テレビで阪神淡路大震災の被災映像を見たのがきっかけでした。神戸の町並みや海の見える公園が自分の生まれ育った横浜と似ており、被害の大きさに衝撃を受けました。

親として地震から子どもの命を守るにはどうすればよいのか不安になり、毎日のように図書館に通い、地震や防災に関する本を読みあさりました。ところが、自分の知りたい情報がまったくないのです。

そこで、知り得た知識を元に、

自分なりに地震から子どもを守り、家族を救う方法をまとめていったところ、国崎家の防災マニュアルができあがりました。ママさんサークルの友人たちにも好評で、やがて本にすることになり、専門家でもない一主婦の考える防災対策ですが、全国のお父さん、お母さんに興味を持っていただくことになりました。

### 日常生活に即した 具体的な対策を立てる

Q 国崎さんの提唱する女性の視点で考える防災対策についてお聞かせください。

国崎…家庭を預る主婦、母親の立

場から考える日常生活に即した防災対策です。家族構成や家族の年齢、住まいなどによって対策の内容は違ってきます。

例えば、小さい子どものいるご家庭では物を置かないシンプルな生活を心がけることです。被災者からは、揺れが大きすぎてそばにいた子どもとところにさえ行けなかったという声もあります。どんなことがあっても子どもを守るという環境を作っておくことです。

保育所に子どもを預けているご家庭では、保育所との連絡を密にしておくことです。子どもを引き取りに行けない場合、どうするかを決めておくことも必要です。

マンションでは、建物の被害は

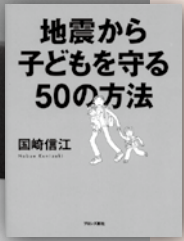
あまり多くありませんが、室内の被害が甚大です。しかも上層階になればなるほど揺れは大きく被害も大きくなります。自分の居住階にどういう被害が及ぶのかを一人ひとりがしっかり理解し、対策を講ずることが必要です。また、建物がしっかりしているために、室内の被害に気がつかず救助が遅れるということもあります。日頃からマンションの住民同士で防災対策のあり方やマンションと地域との連携を考えておくことも必要です。

高齢者のご家庭は物が多く、たすの上を物を置いたり、寝室に物を置いたりしがちです。寝室や日中過ごしている場所には上から物が落ちない、物が倒れないように家具などを整理して、どこにいても安全に過ごせるように日頃から取り組んでもらいたいと思います。

### 防災は無理をせず 楽しみながら続ける

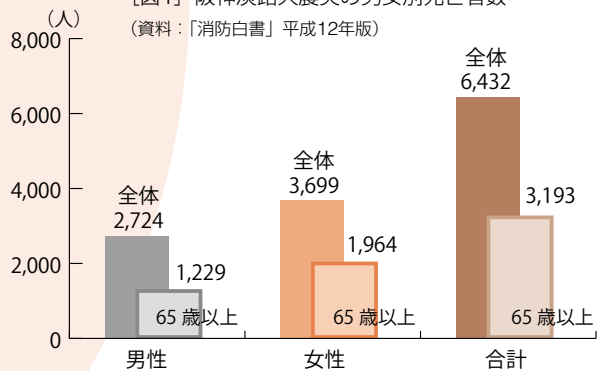
Q 防災に取り組むにあたって、心がけることを教えてください。

国崎…私自身、被災者でもないのに防災の意識を持ち続けてこれたのは、精神面でもお金の面でも



『地震から子どもを守る50の方法』  
国崎信江 著  
プロンズ新社 発行

【図1】阪神淡路大震災の男女別死者数  
(資料:「消防白書」平成12年版)



※全体の合計には、性別不明9人が含まれています。

くにぎきのぶえ  
**国崎信江さん**  
(危機管理アドバイザー、  
危機管理教育研究所代表)

横浜市生まれ。女性として、母として、「子どもの命を守る」をテーマに、防災・防犯対策問題に取り組んでいる。講演、執筆、プログラムコーディネートなどを行う傍ら、文部科学省「地震調査研究推進本部政策委員会」委員などを務める。

無理をせず楽しみを見出していたからだと思います。例えば避難生活は非日常生活ですが、レジャーではテント生活が楽しみとなりま。子どももテント経験があれば避難生活になっても強い気持ちでいられます。

「非常用持ち出し袋」でも、固定観念にとらわれず、玄関にも置けるようなオシャレなバッグにするなど、自分が楽しめて使いやすいものを考えるのもよいでしょう。

無理をしない、楽しむことほかに、ほんの小さい積み重ねを続けることも大事です。室内を安全な環境にするというときに、いきなり家具の固定という大変ですが、玄関の傘立てを倒れても大丈夫なものにする、吊り下げ照明を和紙のものにする、ガラスケースをアクリル製に変えるなど、身近なものから始めるとよいでしょう。

う。防災を頭の隅に入れて物を選び、被害が少ないようにしていく、これだけでも立派な対策です。

**人と人のつながりが命を救う**

Q 地域の役割についてお聞かせください。

国崎：防災は人と人のつながりが大事だと言われます。究極の状況の中でまず助けるのは家族ですが、次に助けるのはパッと頭に思い浮かんだ人です。「あの人大丈夫かしら」と自分のことを心配してくれる関係を日頃からつくるのが大事です。過去の震災でも地域のつながりで救われた命がたくさんあります。

自分がいることを地域に知ってもらうために、例えば、回覧板一つでも手渡しをしていけば、顔を知り、相手を知る一歩になります。そういうコミュニケーションを意識してほしいと思います。日頃から地域のつながりをもつことは自分を守る意味でも重要なことです。

防災は家庭や地域など毎日の生活の中にあります。一人ひとりの意識や行動が防災に強いまちをつくるのです。

国崎信江さんが提唱する非常持ち出し品 (家族の体力、必要度に応じて分類します)

1次持ち出し品 (防災ベスト)



災害時、一刻の猶予もないときに、身につけて持ち出す防災用品です。

- ホイッスル、サバイバルブランケット、簡易トイレセット、ウェットタオル、ティッシュ、三角巾、乾電池、軍手、マスク、ポケットラジオ、携帯型ライト、緊急連絡カード、あめなどの非常食、水など



2次持ち出し品 (3日間の備え)

地震発生後、救助活動や支援体制が整うまでの3日間の備えです。成人男性で15kg、成人女性で10kgを目安に、避難所までの距離、体力を考え、生活の中で必要と思うものを厳選します。

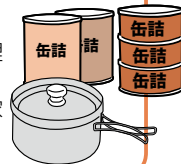
- 非常食(家族人数×3日分)、水、衣類、応急医薬品、ラジオ、懐中電灯、生活必需品(メガネ、コンタクトレンズなど)、貴重品など



3次持ち出し品 (被災生活への備え)

被災後、落ち着いてから避難先にもっていく生活用品です。なくては困るものを中心にまとめます。

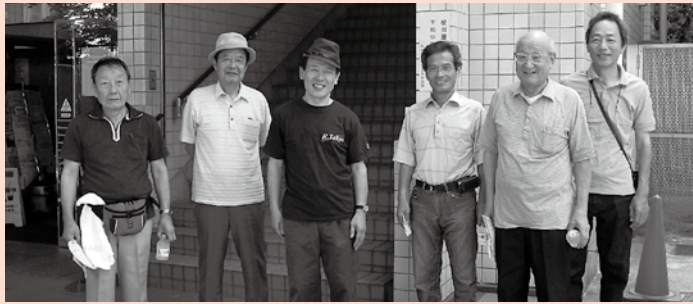
- 食品、水、調理用品、乳幼児品、キャンプ用品、家族の貴重品など



# レポート

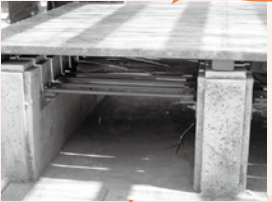
## まちの備えを知っていますか？

中央区では、災害時に地域の活動拠点となる防災拠点(避難所)を中心に、事業スタッフが実際にまちを歩いてみました。23カ所整備しています。ブーケ21の所在する地域の防災拠点を



ご案内してくださった皆さんです。左から、  
 湊2丁目防災部長 松本尚武さん  
 入船1丁目防災副部長 桜井和敏さん  
 中央小学校防災拠点運営委員会委員長 長崎良雄さん  
 入船2丁目防災部長 赤澤忠文さん  
 入船1丁目防災部長 市原健治さん  
 湊1丁目防災副部長 庭山仁さん

**かまどベンチ**  
 椅子の部分を外すとかまどになり、煮炊きができるようになっています。



まちあるきのゴール、湊コミュニティルームです。AEDが設置されています。コミュニティルームの鍵は湊1丁目交番にあります。



**湊2丁目の備蓄倉庫**  
 中には、AEDが設置されています。



**防災用井戸**  
 非常時に生活用水として使います。



**防災拠点・倉庫の充実**  
 実際には目を見張るものがありました。緊急時に地域の交番と連動して迅速に対応する自助、共助システムもできています。町会長、防災責任者の努力と使命感溢れる情熱に、町会一人ひとりの危機管理に対する自治意識も確実に芽生えているようです。

事業スタッフ 村田進益



東京湾北部地震が発生した場合の中央区における被害想定 (資料:「わが家わがまちの地震防災—安心は日頃の備えと助け合い!」平成20年中央区)

中央区の被害想定

事項	被害想定
建物被害	建物全壊件数 1,868棟
出火による被害	出火件数 36件
人的被害	死者 (うち建物被害・屋内収容物) 66人 (61人)
	負傷者 (うち屋内収容物) 7,230人 (3,323人)
	避難者 (1日後) (うち避難所生活者) 32,799人 (21,320人)
帰宅困難者	381,583人
エレベーター閉じ込め台数	632台

ライフラインの支障率と応急復旧日数

ガス	100.0%	53日で復旧
上水道	68.7%	30日で復旧
下水道	28.8%	30日で復旧
電話	1.6%	14日で復旧
電気	11.2%	6日で復旧

「首都直下地震による東京の被害想定報告書」から作成

# 特集

一人ひとりがつくる防災に強いまち

■ 町会役員の方々が、地域住民のためにとても熱心に防災に取り組んで下さっているのがわかり、感謝すると共にとても頼もしく思いました。

事業スタッフ 脇坂文栄



## ■ 入船1丁目町会の防災センター（備蓄倉庫）

中には、非常食、保存飲料水、燃料、非常用トイレ、防災用品、緊急・衛生用品、救助用品、防災用品（ライト、メガホン、ラジオなど）、工具等が備蓄されています。

## ■ 桜川公園

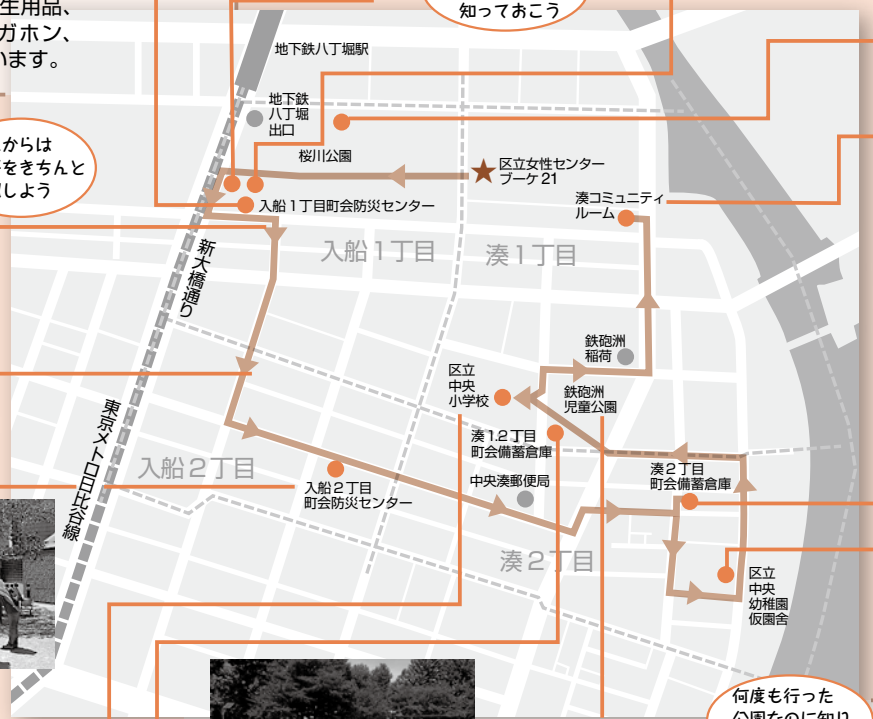
桜川公園は、入船1、2、3丁目の一時集合場所になっています。

### ■ 公共トイレ

災害時対応型公共トイレで、災害時に水洗が使用できなくなった場合、汚物を溜める便槽が地下に配備されています。区内26カ所に設置されています（平成22年4月1日現在）。



自分の一時集合場所も知っておこう



これからは場所をきちんと確認しよう



**消火器**  
防災拠点が中央小学校であることが表示されています。番号は、区の管理番号です。▶

矢印の先に消火栓

**消火栓**  
消火栓標識の下に4mと表示された矢印があります。そこを見ると、消火栓がありました。

この通りには4つ発見！

## ■ 入船2丁目の備蓄倉庫と備蓄品



まち歩きはまだまだ続きます

## ■ 中央小学校

湊1、2丁目、入船1、2丁目の防災拠点です。小学校改築のため、平成22年9月から2年間、防災拠点はブーケ21に移ります。



鉄砲洲児童公園は一時避難場所に指定されています。大勢の人が避難できるように、中央は広場になっています。

## ■ 鉄砲洲児童公園



公園にある防火水槽  
地下に巨大な水槽が設置されています。



かまどベンチ  
椅子板を外すとかまどになり、煮炊きができます。

何度も行った公園なのに知りませんでした

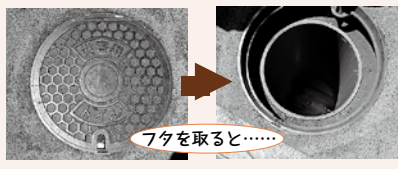
■ 小学校が防災拠点になっていることは聞いていましたが、実際に見たのは初めてです。グラウンドにあるマンホールトイレの仕組みには驚きました。よくできています。

事業スタッフ 橋合信代



防災拠点には、情報収集・伝達用資器材、初期消火・救助用資器材、照明、給食・給水資器材、救護用資器材、生活必需品、食料、水などが備蓄されています。

校庭にあるマンホールトイレです。マンホールのフタを開けると、地下には耐震の下水道管が通っていて仮設トイレを設置できます。



フタを取ると……

## ■ 湊1、2丁目町会備蓄倉庫と防災資器材倉庫



備蓄倉庫には備蓄

鉄砲洲児童公園のトイレの2階が備蓄倉庫になっています。トイレの隣に防災資器材倉庫があります。



## ■ 想定地震

前提条件	内容
1 震源地	東京湾北部
2 地震の規模	マグニチュード7.3
3 震度	震度6強
4 震源の深さ	約30～50km
5 季節・時刻等	冬の平日午後6時、風速15m/s

区の取り組み

中央区における防災の取り組みと男女共同参画について

中央区総務部 高橋和義防災課長にインタビュー

中央区独自の取り組み

区では、近年、超高層をはじめとするマンションが増え、集合住宅に居住する世帯は86%に達しています。このため、平成17年から高層住宅の防災対策検討委員会を設けて防災対策の研究をしてきました。その成果の一つが、開発事業における防災対策への取り組みです。例えば、一定規模以上の高層住宅を建設する場合、5階層以内に防災備蓄倉庫を設置する、地震時対応エレベーターを設置する、避難場所を整備することなどを義務づけています。もう一つが高層住宅防災パンフレット「揺れる高層住宅！その時あなたは…」の作成です。先進的な事例として、内閣府の防災白書やマスコミに取り上げられ、全国の自治体からも問い合わせがきています。また、中央区の特徴として買い物に来る人などを対象

女性の参画状況

区民の皆さんが運営する防災組織には「防災区民組織」と「防災拠点運営委員会」の2つがあります。「防災区民組織」は、町会・自治会単位で組織され、町会の役員が運営しています。「防災拠点運営委員会」は、複数の防災区民組織や自治会で構成され、防災拠点(避難所)ごとに設置されています。委員数は308名、女性の委員は26名で比率は8.4%です。女性の比率が低いのは、町会の役員に男性が多いことと、防災というと男性の仕事のような印象をもたれるところがあり婦人部に任せる町会が少ないためと理解しています。もうひとつ区民の方が参加される組織として、「消防団」があります。現在419名の消防団員

女性の参画に期待すること

のうち、女性は44名で比率は10.5%です。「消防団」は、日頃から消火活動の訓練をしなければなりません。近年、女性の消防団員は増えてきています。

基本的に防災は男女の別なく取り組むものと考えています。自分たちの命、まちは自分たちで守るのが防災の大原則です。そのときに男の役割、女の役割はありません。安否確認や救出などには男女も年齢も問わず対応していかなければなりません。小学校ごとに設置している防災拠点(避難所)には活動マニュアルを置き、誰でも必要な行動がとれるようにしています。

防災というと発災直後の救出救助や資器材の運搬、避難所の設営などをイメージしがちですが、被災生活期に入ると避難所が生活の場となります。区では昨年度、すべての防災拠点(避難所)に粉ミルク、哺乳瓶、アレルギー用ミルク、軟水、紙おむつなどを配備しましたが、女性の意見が参考になりました。女性の方も日頃からまちの防災に関心をもち、委員会などに積極的に参加していただきたいと思います。

中央区発行の防災パンフレット



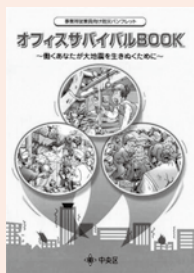
高層住宅防災パンフレット  
「揺れる高層住宅！その時あなたは…」



区民全戸配布  
「わが家わがまちの地震防災」



事業所向け  
「防災SCOPE」



事業所従業員向け  
「オフィスサバイバルBOOK」

「ちゅうおう安全・安心メール」に気象・地震などの情報を追加しました

「ちゅうおう安全・安心メール」は、区内における、防犯情報、消費生活情報、地震情報、気象警報・注意報、洪水予報、災害時の緊急のお知らせ等を携帯電話またはパソコンにメールで配信するサービスです。ぜひご登録ください。(登録・配信は無料ですが、受信料はご負担願います)  
◇ご登録は次のアドレスに、件名・本文を入れずにメールを送信し、画面の手順に従ってください。  
entry-chuo\_bousai@bousai-mail.jp